

広 島 リポーター

「ハチ公号」に乗ってみませんか？

リポーター 島山 肇子^{はつこ}さん（獅子ヶ森1区）

最近、街でカラフルなバスをよく見かけます。私の三歳の娘は、それを見て「ハチ公号だ！」と言って、とても喜びます。今までの大館には無かった都会的な雰囲気があり、何となく街が明るくなったような気がします。そんな車をいつも見ていたら、ただ眺めているだけでなく、実際に「乗ってみたい」と思うようになり、レポートしてみました。

利用者数が大幅に増加

乗ってみる前に、まずハチ公号を運行している秋北バス本社の乗合自動車課を訪ねました。そこでは、お忙しい中、安部課長と渡辺係長のお二人からいろいろお話を伺うことができました。

現在、ハチ公号は一周十三・八キロ、所要時間四十四分で運行されています。もし、エリアを拡大して距離が延びた場合、目的地までの時間が長くなるなど、本来の需要にマイナスになるのではないかと懸念されること、要望が多い中で一部地区だけを受け入れると、不公平が生じることなどの理由で、今のところは白紙の状態であるということでした。

乗客本意の心配り

一日十一便、逆回り三便、計十四便のうち、最も利用者が多いと伺った、「バスターミナル十一時二分発の「ハチ公号」に乗ってみました。二十九人乗りのバスは、こ



島山リポーター

運行エリアの拡大は？

今後、運行エリアを拡大する予定がないのか、伺ってみましたところ、会社には、たくさんの地区から要望がきているとのことでした。



利用者の反応

乗客の皆さんから利用目的など、を尋ねてみたところ、病院帰りに温泉や買い物往復によく利用しているという人が大半でした。中には、子供がバスが大好きなので、ときどき一周するという、二歳の男の子を連れた若いお母さんも。また、所用で大館に来て、市内見物も兼ねて乗ってみましたという婦人もいました。さらに、運転手さんがとても親切なので、ハチ公号しか利用しないというご婦人もいらっしゃるほどでした。

ある買い物帰りのご婦人は「安く助かるし、市内をぐるっと回



安部課長(左)と渡辺係長

るので、今まで見たことのない街が見られていいですよ。それに、どこにどんな建物があるかなどもわかるようになり、役立ち、とても楽しいので、いつも乗っているんです」ということでした。最初は長いかな、と思いました。乗客の皆さんと話しているうちに、あつという間に一周した感じでした。快く取材に協力してくださった皆さんに感謝しています。マイカー時代になり、私をはじめ、多くの人が、バスをほとんど利用しなくなった今でも、やはりバスを必要としている人はたくさんいます。その中で、この「ハチ公号」は、とてもありがたいバスだと思います。皆さんも一度、小旅行気分に乗ってみてはいかがでしょうか？ 今まで知らなかった大館を発見できるかもしれません。